

# 年頭のあいさつ



標茶町長  
佐藤 吉彦

明けましておめでとございませう。皆様には、ご家族おそろいのうちにご健勝にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

私は、昨年10月、町民の皆様をはじめ、多くの方々のご支援と心温まるご厚情を賜り、標茶町長に就任いたしました。ここに、心から感謝を申し上げますとともに、まちづくりへの重責を担うこととなり、昨年12月に開催されました第4回定例町議会で、所信表明を行い、4年間のまちづくりの基本的な考えをお示ししたところです。

今日の地方自治体を取り巻く環境は、人口減少と少子高齢化社会の同時進行により過疎化が進んでいます。日本など11カ国によるTPP11が発効し、安い農畜産物の輸入が増加するなど、道内の農業に与える影響が懸念されています。また10月からの消費税率引き上げに伴う影響など多くの課題に直面しています。

さらに、近年は、自然災害が頻発しています。昨年9月6日未明に起きた北海道胆振東部地震は震度7を記録し、全道一円が数日間

停電になるなど、日常生活や、経済活動に大きな影響が生まれました。誰もが想定しえなかつた事態にも対応を迫られております。町民の安全・安心なまちづくりを実現するため、防災・減災の対策に努めてまいります。

これら地方自治体を取り巻く環境は厳しいものがありますが、多くの皆様からお寄せいただきました信頼と期待に応えるべく公平でわかりやすい行政の運営に努めるとともに、標茶の豊かな地域資源を最大限に活用を図り、積極的に情報を発信し、行動することによって、この町の可能性が大きく広がっていくと確信しております。

今年、皇位継承が行われ、元号が新たになるなど、歴史の大きな節目となる年の始まりであり、飛躍への期待が膨らみます。標茶も「あの年からまちが元気になった」と後世になって語り継がれるように、守りの町政から攻めの町政への転換を図ります。新しい年が新しい町づくり元年となるよう、心を一つにして、標茶の英知を結集し「元気なしべちゃ」を、共に創り上げようではありませんか。

結びに、これからも町民の皆様の変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。合せて皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。年頭に当たつてのご挨拶といたします。



標茶町議会議長  
館田 賢治

町議会を代表いたしましたして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、平成31年の健やかな元旦を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、昨年中は町議会の運営に對しまして、ご提言、ご支援を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、自然災害の多い年でありました。7月には西日本豪雨が発生し、死者が200名を超えるなど大きな災害となりました。また、9月には北海道胆振東部地震により、過去に経験のない長時間にわたる停電が北海道全域に発生し、道民生活に大きな影響を与え、酪農業や商工業等にも大きな被害をもたらしました。被災地の早急な復旧、復興を願うものです。

一方、国政においては、消費税増税、原子力発電所稼働の是非をはじめ代替エネルギーへの展望、TPPへの対応など、今後の国のあり方を考える大きな

転換期となり、現在も、その真つ只中にあると感じております。地方経済対策、雇用創出の政策等による景気対策が、地方の自治体にも波及することを期待するところであります。

今年度も厳しい財政運営の中で予算編成となること予想されますが、農林水産業や商工業の振興、子育てや高齢化時代に向けての福祉施策の拡充、教育施設の環境整備などの課題が山積しており、町民の負託を受けた私ども議員は、執行機関と互いに切磋琢磨しながら、まちづくりの主役は町民の皆さんであることを第一に一層の努力をして参ります。

どうぞ、本年も変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げますと共に、町政・町議会にこれまで以上に関心を持っていただき、皆様の積極的なご意見等を寄せていただきますようお願い申し上げます。

本年は平成最後の年となります。新しい年が皆様にとりまして、また標茶町にとりまして、素晴らしい年でありますように心からご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

# 補正 予算

第4回定例町議会において、平成30年度の補正予算が可決されました。一般会計の補正予算は保育園・保育所関係経費、病院会計負担金・補助金、育成牧場関係経費、道路台帳補正業務、除雪対策などで、1億5,682万8千円を追加し、予算額は118億10万9千円となりました。そのほか各会計の補正予算額および一般会計の主な補正内容は次のとおりです。

## 平成30年度 標茶町各会計予算の概要

(単位：千円 △は減額)

会計別		補正前予算額 (A)	12月補正額 (B)	補正後予算額 (C)=(A)+(B)
一般会計		11,643,281	156,828	11,800,109
特別会計	国民健康保険事業 事業勘定	1,168,709	△ 6,319	1,162,390
	下水道事業	534,000	△ 1,873	532,127
	介護保険事業	1,542,548	2,045	1,544,593
	後期高齢者医療	115,516	—	115,516
	簡易水道事業	181,000	△ 220	180,780
合計		15,185,054	150,461	15,335,515

### (企業会計)

病院事業	歳入	1,257,759	15,658	1,273,417
	歳出	1,272,807	18,574	1,291,381
上水道事業	歳入	97,687	—	97,687
	歳出	144,232	—	144,232

区分	主な補正予算	事業費	内容
総務費	知事・道議選挙費	5,073	
	道議選挙費	△ 8,776	
民生費	介護保険事業特別会計繰出金	2,045	
	保育園・保育所関係経費	10,814	賃金ほか
衛生費	病院会計負担金・補助金	14,486	
	簡易水道事業特別会計繰出金	△ 17,578	
農林水産業費	育成牧場経費	75,858	賃金、飼料費ほか
	道営事業負担金	3,375	阿歴内地区
土木費	道路台帳補正業務	4,000	
	除雪対策	127,972	委託料ほか
	社会資本総合交付金事業	△ 10,386	虹別61線
	社会資本総合交付金事業	△ 33,138	橋梁長寿命化
諸支出金	下水道事業特別会計繰出金	△ 1,873	
職員費	職員給与費など	△ 17,858	

# 佐藤吉彦町長 所信表明

平成30年第4回標茶町定例議会の開催にあたり、町政運営の所信を申し述べ、議員各位をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## はじめに

9月30日に行われました標茶町長選挙におきまして、町民の皆様をはじめ多くの方々のご支援と心温まるご厚情を賜り、町政運営のかじ取りを任され、標茶町長に就任いたしました。ここに、心から感謝を申し上げますとともに、まちづくりへの重責を今更ながら痛感しているところであります。

行政を取り巻く環境は極めて厳しいものがありますが、多くの皆様からお寄せ頂きました信頼と期待にこたえるべく公平でわかりやすい行政運営に努めてまいります。歴代町長をはじめ諸先輩方が鋭意努力され、進めてこられました政策を引き継ぎながら、町民の皆様には更なる町づくりへの参加をお願いし、町職員には、日常業務が本当に生活者

の視点での住民サービスに  
なっているのか、常に自己変  
革の姿勢で業務を進めること  
を求めながら、私もその先頭  
に立って、ふるさと標茶を  
もって元気にできるよう、全  
力で取り組む所存であります。

## 自治体を取り巻く環境

国が推進する「アベノミクスにより、日本経済は、確実にプラス成長している」と言われていますが、全国的な人口減少と少子高齢化の同時進行は、本町においても例外ではなく、過疎化が進行する本町においては、その「経済の好循環」は実感できない状況が続いております。地方経済が低迷する中で、収入の多くを地方交付税や国庫補助金に依存せざる得ない現行の地方財政制度から、本町において

も、今後も引き続き厳しい財政運営が予想されます。

また、日本など11カ国によるTPP11（環太平洋パートナーシップ協定）が本年12月30日に発効する見通しとなったことなど、さらに自由化の波はTPPにとどまらず、来年2月には日本とEUとの経済連携協定（日欧EPA）が発効することになっており、日本の農業に与える影響が懸念されます。今後の動向と国

や道の対策に注視するとともに、関係機関・団体などと連携して対応してまいります。さらに、近年は自然災害が頻発しています。9月6日未明に起きた北海道胆振東部地震は震度7を記録し、全道一円が数日にわたり停電となる

など、誰もが想定しえなかった事態にも対応を迫られております。町民の安全・安心なまちづくりを実現するため、町内会・地域会や関係機関との連携を強化し、防災・減災の対策に努めてまいります。

## 主要な施策等

このような中、私は、次の3点を基本方針として町政を推進いたします。

I 町民が元気にまちの主役として活躍できる、公平でわかりやすい行政を推進し

ます。

II 標茶の特性を最大限に活かした、身の丈にあった田舎暮らしの出来る元気なまちの創造をめざします。

III 未来に向かって、元気で創造性豊かな標茶人を育むまちづくりをめざします。

さらに、次の五つを大きな柱としてまちづくりに取り組んでいく所存です。

## 1 まちの元気を取り戻す、交流ステージ標茶へ

まちの元気を取り戻すため、守りの町政から攻めの町政への転換を図ってまいりたいと考えております。まず、国が奨励する事業であります「ふるさと納税」の積極的な活用を図り、返礼品となる地元特産品の販売拡大、新たな特産品の開発奨励、全国発信等により知名度アップを図ります。同様に「地域おこし協力隊」も積極的に活用し、外部からの人材活用により、地域資源の発掘による起業化、商品化、イベントの支援などをめざします。人口減少対策として移住政策を強化し、塘路地区に分譲地を検討します。釧路市からの通勤圏であると同時に、釧路湿原国立公園に隣接する地域であり、大自然の中での生活や子育てを

希望する人を全国から誘致します。交流の拠点、酪農・畜産文化の発信拠点、さらに防災機能を兼ね備えた「道の駅」を検討します。また、新たな賑わいとして、多和平での牧場祭（仮称）や、塘路地区での自然体験型のイベントの創造など、新たな賑わいづくりを検討してまいります。

## 2 環境に配慮した、元気な産業の創造をめざして

標茶は酪農・畜産が基幹産業のまちであります。これまで以上に、経済団体のJAしべちや、森林組合、塘路漁業協同組合との連携強化により酪農、畜産、林業、水産業の振興を図り、さらに、これらを下支えする商工会とも協力し、元気な産業の創造を図りたいと考えております。まず、流域全体の環境保全が急務であります。バイオガスパラントの整備促進を図ると共に、農福連携による新たな雇用の場の創出に取り組みます。老朽化したJAの加工センターの改修を進め、新たな地元特産品の商品化などに向けて開発・研究など支援を充実します。ミルクプラントを整備し、学校給食での提供を目指すなど、酪農・畜産文化の発信基盤づくりを進めま

す。育成牧場の哺育機能を維持継続すると共に、各地区での哺育センターやTMRセンターの整備、営農サポート体制の充実など農家の負担軽減を図ります。育成牧場の羊の飼育については、さらに地元ブランドとして供給できるような体制の強化を進めます。町内の豊かな森林資源については、環境保全と地元酪農・畜産への有効活用、再整備の循環を維持しながら魅力ある産業として推進します。森林資源の持つ水源涵養や流入河川の保全、漁場の再生などにより、塘路湖など内水面の漁場環境の保全を図り、ワカサギなどの水産資源の安定的な確保を図り、ブランド化を推進します。観光振興策では、JR釧網本線の路線維持に努めるとともに、ワイズユースの理念に沿い、家族単位など少人数での滞在型観光を支援し、施設の充実と情報発信を図ります。

### 3 未来を切り開く、元気な子どもたちのために

子どもは、将来の標茶町を担う大切な宝であります。基幹産業であります酪農・畜産などの理解や将来にわたり自然環境を守り育てるため、ふるさと教育、食育、環境教育

を推進します。また、地域全体で子どもたちを育てるという視点にたち、幼稚園・保育園・小中学校・高校の一貫した連携強化を図り、質の高い教育環境づくりに努めてまいります。標茶高等学校につきまして、総合学科であると同時に農業の準拠点校として、地域活動への積極的な参加が高く評価されており、本町にとつてなくてはならない貴重な存在であることから、間口維持に向け、新たに通学手段であるJR・バス定期代の助成を検討するなど、教育振興会と連携を図ってまいります。また「旧北海道集治監釧路分監本館」は、本町を中心とした東北道道の開拓史を語るうえでの歴史的価値が認められました。さらに国の埋蔵文化財に指定された多くの包蔵地など、これら標茶遺産を、ふるさと標茶の根拠として次世代に責任をもって継承して参ります。

### 4 安全・安心な暮らしを守る

人口減少と少子高齢化が同時進行する中で、安全・安心な暮らしを守ることは喫緊の課題であります。老朽化が進んでいる「特別養護老人ホームやすらぎ園」「軽費老人ホーム駒ヶ丘荘」など、今後の高齢者の推移を見ながら、これら福祉施設の改修について総合的に検討して参ります。町立病院につきましては、空きベッドの有効活用として、特

養サテライトなどの介護分野や人工透析の実施について検討を始めます。子育て世代の経済的負担の軽減を図るため、保育園・幼稚園の保育料の全面無料化、医療費無料化を大学生まで拡大します。障害があっても、地域で安心して働き、暮らせるよう、社会参加の機会や就労支援の充実に取り組んで参ります。高齢化社会に対応した交通体系を総合的に検討して行くとともに、町内会・地域会単位等での高齢者のサロンなど居場所づくり、公民館機能の充実によりデイサービスの一部を公民館で展開するなど、利用者の視点に立ったサービスについて検討して参ります。

### 5 町民が主役となり、元気で挑戦する役場をめざして

町民が主役となり、町民参加のまちづくりを展開するには、公平でわかりやすい行政を推進すること、そのために情報発信を積極的に行っていくことが必要なことから「まちづくり町民講座」を定期的

に開催し、タイムリーな話題の提供に努めます。行政の拠点施設である役場庁舎について老朽化が進んでいることから、町民開放型でコンパクトな役場庁舎の建設を検討します。また、災害時の情報発信機能も兼ね備えたコミュニケーションFIM放送について検討を進めます。光ファイバーについては、産業の支援や町民生活の向上を目指す視点から研究を進めます。道庁などの行政機関への職員の派遣研修や、JAなど民間との交流を積極的に進めるなど、職員研修機会の充実をはかり、元気で、そして、課題に対して果敢に挑戦する役場へと大いなる変革を目指します。

### むすび

以上、町政運営を担うにあたり、基本的な考えを述べさせていただきます。町議会をはじめ、町内会・地域会、JA、商工会、町社協等の諸機関、諸団体との連携を一層密にし、職員と一丸となつて、お互いを尊重し思いやりに満ちたまち、自由闊達な議論の起る、風通しの良いまちづくりに全力を傾注してまいります。

町民の皆様、議員の皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。町長就任にあたっての所信表明とさせていただきます。

